

令和7年度の学校評価

本年度の 重点目標	① 各教科等における授業・実践力の向上 ② ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③ 生徒指導上の規範意識の向上及び多様な背景をもつ生徒に寄り添った指導・支援の充実 ④ 一人一人に応じた自立活動の充実及びキャリア教育の推進 ⑤ 地域および関係機関との連携強化及び社会参加に必要な資質・能力の育成 ⑥ 社会情勢や学校の現状と課題を考慮した危機管理体制の構築		
※以下の各項目（分掌）の重点目標は、上記の「本年度の重点目標①～⑦」に関連した内容を設定した。 どれに関連しているかを下記の「重点目標」の末尾に番号で示した。			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学校生活の 充実 (高等部)	「職業自立」の 支えとなる「生 活自立」に向 けた教育活動 及び指導の充 実を図る	・本宮校舎が目指す「生活自立」についての 三つの柱を共通理解し、授業改善や指導 方法の検討をする。 ・ロイロノートの効果的な活用について授 業例を共有する。 ・生徒指導部、各学年と連携し、身だしなみ、 登下校（公共の場）でのマナー、コミュニ ケーション（SNS 利用、挨拶、言葉の選 び方）、粘り強さ（課題に向き合う姿勢、自 己理解）に重きを置いた指導を継続する。 ・あらゆる視点での生徒の情報共有や教育 活動の検討ができる機会を設定する。	・全職員が社会人の模範としての自覚を もち、指導の重点を共有して実践する。 指導の重点は具体的に伝える。 ・生徒自身が自己の良さや課題について 気づき、自己理解が深められるような 環境設定、指導計画を立てる。 ・現在までに整えられている本宮校舎で の学びや指導方針を確認し、現状に見 合った見直しをする。 ・一部職員に業務が偏らないように相談、 助言する。
	①③⑤		
学習指導の 充実 (総務部)	ICTを効果 的に活用する ための環境整 備、啓発を行 う	・ロイロノートの研修、授業実践を行い、 多くの先生に情報提供を行って利活用 につなげる。 ・ホームページを定期的に更新する。ま た、魅力あるホームページの工夫をす る。	・ロイロノートの研修や授業実践、機器等 の利用マニュアルの作成、管理資料の 整理を行い、利用や管理がしやすい環 境を構築する。 ・現職研修やスクールエンジンなどを通 じて、利活用につながる情報提供を積 極的に行う。 ・ホームページの編集方法や写真の加工 の方法を伝え、更新の手助けに努める。 また、生徒会の生徒の編集も加え、より 親しみやすく読みやすい、魅力的なホ ームページになるように努める。
	①②		
(教務部)	個に応じた目 標設定や学習 指導の充実を 図る	・作業日誌を活用した目標設定や振り返 りを行い、自己理解の向上を図る。 ・個やグループ別に応じた段階を示し、ニ ーズに応じた指導を展開する。	・生徒の特長や課題について、社会生活場 面の事例を関連付け、継続的に指導や 助言をする。 ・現職研修において、個に応じた教材や ICT 機器の活用事例について共有する 機会を設ける。 ・意見交流の活性化や教科横断的な学び に繋げるため、他教科と合同で教科会 を実施する。
	①④		
規範意識の 向上と自己 指導力の獲 得 (生徒指導 部)	いじめ問題 をはじめ、生徒 指導事案に対 して役割を明 確にしてチー ムで対応する	・いじめ防止基本方針の内容や生徒指導 ガイドラインについて校内で研修を行 い、周知を図る。 ・いじめ防止基本方針や生徒指導ガイド ラインに沿って、いじめや問題行動の 未然防止、早期発見に係る生徒への指 導及び取組を行う。	・定期的に生徒情報を共有する。 ・生活に関するアンケートの結果や心の オアシスタイムの相談内容を共有し、 個々の悩みに組織で対応する。 ・人権意識を高めるために外部講師等 を活用し、思いやりのある生徒の育成 を目指す。
	③⑤		

	生徒、教員の防災意識を高め、非常時に備える	・非常時の対応について周知する。 ・外部講師を招いた防災学習を実施し、非常時の行動や事前準備について学ぶ機会を設ける。 ・より実践的な避難訓練を実施する。(余震の発生、トリアージ等)	・南海トラフ臨時情報発令時等、非常時の対応について周知し、職員が共通認識をもって有事の対応に当たれるようにする。 ・防災用品や備蓄食料の数、保管場所を職員に周知する。 ・実際に学校現場で起きた地震災害を紹介し、訓練に取り入れる。
	⑥		
健康の維持増進 (保健体育部)	生徒が自分で気付く安全教育を推進する	・生徒が自分でヒヤリハットに気付けるよう、各教室にヒヤリハット報告書を常備する。 ・生徒が自分で熱中症の予防と応急手当ができるように、通学カバンにハンドブックを携帯する。また、プレクーリングなどの対策を職員と生徒に周知する。	・生徒会や保健委員会の活動と連携し、生徒が自分でヒヤリハットを書いて重大事故を未然に防止できるようにする。 ・全校朝礼や下校指導で、生徒指導部と連携して、安全な学校生活についての指導や熱中症の対策についての啓発を行う。
	①③⑥		
進路指導の充実 (進路指導部)	生徒が社会で主体的に活躍できるよう、キャリア教育を推進し、社会参加に必要な資質・能力を育成する	・企業の障害者理解を促進するとともに、企業から「働くうえで必要な力」を聞き取り、相互理解を深める。HP やスクールエンジンに掲載し、生徒、保護者、職員の進路意識向上につなげる。 ・就労アセスメントシートを作成し、抽出自立活動等で活用する。的確な情報提供を行い、組織的・継続的に進路指導ができる体制を整える。	・進路指導主事、進路担当者が中心となって職場開拓を行う。企業の許可を得て、HP に掲載することで、本宮校舎の魅力発信にもつなげる。 ・生徒が希望する進路を実現できるよう支援するとともに、生徒の実態や家庭環境を把握し、適切な指導を行う。
	④⑤		
特別支援教育の専門性の向上 (研修部)	教員の資質向上のための研修体制を整え、自立活動の充実を図る	・現職研修及び教職経験者研修を核として、計画的に研修会を実施する。 ・抽出自立活動を通して、個に応じた具体的な指導の充実を図る。	・現職研修の反省アンケートの回収率を上げ、主務者に伝えることで次年度の研修をよりよいものにしていく。 ・抽出自立活動で指導した内容を学年で共有し、学校の教育活動全体を通して指導することで、系統的・継続的な指導を目指す。
	①③④		
健全な職場環境づくり (教頭)	本宮校舎の魅力向上と適切な情報発信	・地域資源(企業、町内会、商工会等)を積極的に活用し、授業改善、部活動の活性化を図ると共に、より効果的な生徒指導を行う。 ・情報発信の内容や頻度を見直す。	・企業に協力を得て、工業の授業改善(現場を意識した環境設定や重点指導内容)を図る。また、外部講師の協力を得て、授業や部活動の活性化を図る。 ・町内会等と連携し、登下校時のマナー指導の充実を図る。 ・学校の日頃の様子が発信できるように、HP 上の日課表や年間行事等に生徒の活動の様子について画像を添付する。また、生徒心得(校則)を掲載する。 ・HP 上に掲載する行事等の最新記事について、速やかに作成し、スムーズに起案できるような仕組み作りをする。
	①②③⑤		
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①個別最適な学び、協働的な学びの充実 ②いじめ防止・自己指導能力の向上 ・SNSをはじめとしたスマートフォンの使用の仕方について ・登下校時のルールやマナーについて ・「からかい」や「ふざけ」がいじめにつながることへの理解		